



2月号

麻布幼稚園だより

港区立麻布幼稚園
園長 佐藤 幸子

かんがえる子

園長 佐藤 幸子

麻布幼稚園の教育目標は、「げんきな子、やさしい子、かんがえる子」です。先日、親子論語の会がありました。年4回の最終回でした。先生が、最初の約束を確認しました。一つは「質問されたら一生懸命考えること」でした。「一生懸命考えても分からぬときは、答えは『分からない』でいいんです。考えることが大事です」と、お話しされました。麻布幼稚園の園歌には「思ったことを元気よくいつでも言える子どもです」という歌詞もあります。しかし、自分の考えをしっかりと持って、発言することは容易なことではありません。

先生が、「お正月はおせち料理を食べましたか」と子どもたちに尋ねると「おもち」「黒豆」と様々な答えが返ってきました。論語の先生はどのような答えも「そうですね」と受け止めてくださるので、子どもたちは考えたことを口々に言っていました。「人の考えを聞いて、自分の考えと相手の考えで考えがどんどん増えて豊かになっていくのがいいですね」と子どもたちの考え方一つ一つ受け止め、ほめてくださいました。論語の会では、子どもたちが体験を通して知っていることを基にこのようなやり取りを通して最後に論語を読んで、意味を教えてくださいます。こうして豊かな心や人間力を培います。

※園には、論語の先生の書かれた本があります、ご興味のある方は職員室までお声がけください。

うめ組の子どもたちが先日、幼稚園のビオトープで氷を見つけました。「みて、馬の形だよ」「触ってもいいよ。冷たいよ」と見せてくれました。その後、子どもたちは水を入れた容器を思い思いの場所に置いて、氷ができるかどうかを楽しみにしていました。朝、登園して挨拶をすると、さっそく氷ができているかどうか確認していました。場所によって氷のでき方が違っていたり、花弁が入っていたり、子どもたちも様々なことを考えて試していました。「こうしてみたらどうかな」「なぜそうなるのかな」と考えながら、友達同士で刺激を受け合って、さらに試してみる中で、学びが深まっていきます。とうきょうすぐわくプログラムでは、「自然とのかかわり」をテーマに探求心を育んでいます。



論語の会



氷冷たいね



小学校の校庭で凧揚げ